

砺波市文化会館 新館長挨拶



『素晴らしい環境の中で』

砺波市文化会館長 竹正哲郎

四月に館長となり、関係者に支えられ、あっという間にお盆となりました。

来て早々の四月、NHK「のど自慢」公開放送や「岩崎宏美」コンサート、各団体の総会や講演会等から月末のチューリップフェア時に多くの方々に来ていただいたところであり、その分職員も大忙しでありました。

私が、この文化会館に来てよかったことの一つに、立地環境が素晴らしいということです。事務室からはチューリップ公園北門付近が、また大ホール「ホワイエ」からは大花壇（建設当初は立山連峰が眺められたとか）が見られ、チューリップが色づく頃は心を落ち着かせてくれました。また、遠方からの来館者の方々からも環境のよさを褒めていただいているところです。

さて、砺波市文化会館の昨年度利用者数は、農村環境改善センターを含めて135,000人余りでありました。ここ10年余りは増減はありましたが、ほぼ横ばいで推移しているところです。この間、市内では新しい施設ができ利用者が分散傾向となっておりますが、職員一同利用増をめざして智恵を絞ってきたところでもあります。伝統芸能活動をしている団体では、若い世代の加入がないとの声を聞きます。文化会館の設置目的には「市民の芸術文化の普及を図る」とあり、貸し館だけでなく自主事業での文化の普及をはじめ、文化団体の活動支援や協働しての活動育成を推進しているところです。現在、市民ミュージカルや児童合唱団、となみ野バンドクリニックなど青少年主体の事業を推進しているところでもあります。また、毎年行っている幼小中学校向け団体鑑賞は生の舞台を子供たちに観てもらい、芸術文化への親しみをもちてもらうための事業として続けています。今後文化会館で活動している人たちの中から新たな活動グループが誕生するのを期待しているところでもあります。そして、素晴らしい環境の公園で活動グループが何か出来ないか思案しているこの頃でもあります。